

みんなの党・衆議院議員 柿沢未途

## 大失敗を

# 乗り越えて

——理想の未来を創るために

私は、今回の嵐のような「政権交代」のうねりの総選挙で、運よくみんなの党の

比例重複候補者として当選を果たすことができませんでした。もちろん、文字通りの「半人前の衆議院議員」であることは間違いありません。

三八、八〇八票で当選したことを肝に銘じて衆議院議員としての活動を進めてまいります。

ご承知の通り、みんなの党は結党3週間で全国で三〇〇万票という、熱いご支持をいただきました。このことは、渡辺喜美代表、江田憲司幹事長をはじめとする党のマニフェストが、皆様から共感をいただいたという事に他なりません。「脱官僚・地域主権・生活重視」の基本理念と「政権交代から政界再編へ」というスローガンに多くの皆様からの熱いご支持とご声援が、選挙中から痛いほど肌を感じられました。この基本理念とマニフェ

ストを実行できるよう今後とも一生懸命頑張っております。

私は、今国会では「予算委員会」と「国土交通委員会」に所属することとなりました。予算委員会では「真の脱官僚政治の実現」が当面の大きな課題となります。また、「国土交通委員会」では「高速道路の無料化」が議論されます。

いずれも、国民の皆様にとって重要な課題です。この法案が「公正、公平」であり、皆様にとって有意義なものとなるよう、十分に検討していかなければと思っております。

今年、オバマ米大統領がノーベル平和賞を受賞し、世界に強烈なインパクトを与えました。受賞についての賛否両論は多々あると思いますが、「核廃絶は人類の悲願」であることには異論を挟む余地はないと思います。日本はこの地球上で唯一の被爆国であり、「広島」「長崎」の記憶

は絶対に薄れさせてはいけません。

私は、昨年謹慎中でありましたが、米国のオバマVSマケインの大統領選挙のニュースを海外のネットで見ると、どうしてもこの目で確かめたいという思いに駆られ、単身でオバマ選対にボランティアで参加しました。その時の米国民、とくに若者の熱気には目を見張るものがありました。「オバマのチェンジ」は「一人ひとりにとってもチェンジ」だったのです。

その時の様子は、機会があればまた詳しく述したいと思います。今回のノーベル平和賞は「ノーベル賞そのもののチェンジ」なのかも知れません。「核廃絶」がそ



う簡単に実現するとは思いませんが、ともかくオバマ大統領の掲げた「理想」への高い評価が受賞の対称だったのでないでしょうか。

政治家にとって最も大切なことは「志」「理想」を持つことだと思っています。いまはまだ半人前の政治家ですが、いずれ私の犯した大失敗を皆様から許していただけるよう精一杯精進してまいります。そして、若い世代の皆様が「理想の国」になるよう、高齢者の皆様の笑顔が絶えないような「日本」の国づくりができるよう全力投球してまいります。皆様のご意見、ご叱声をお待ち申し上げます。

# れるハツ場ダムを視察

十月二十日、群馬県長野原町に建設が計画されているハツ場ダムの建設予定地を視察してきました。このたび衆議院の国土交通委員会の委員に就任することとなり、大きな議論のテーマとなるであろうこの地を自分の目で確認しておきたいと考えました。

民主党に政権交代し、前原誠司・国土交通大臣が就任早々、ハツ場ダムの建設中止を打ち出しました。それ以来、ハツ場ダムのことがマスコミに取り上げられない日はありません。建設予定地にあるダム広報センター「やんば館」にも多くの見学者が訪れています。最近は見学者が三倍以上に増え、週末には一〇〇〇人を上回るとのことでした。

この日、国土交通省ハツ場ダム工事事務所の澁谷慎一所長に案内をお願いし、「やんば館」で落ち合いました。ダムが出来ると、水位は棒線部に達し（写真参照）、この場所も水没します。



現地に到着してまず目に入るのが、度々メディアで取り上げられているハツ場ダム湖二号橋（仮称）の巨大な橋脚です（写真②）。大きさが自立つため映像として紹介されやすいのですが、これはダム本体とは別の、道路



のためのものです。ダム本体は未着工のまま中断されています。

## 自然か 水の安全かの苦悩

「ダムサイト」と呼ばれる水没地に降りてみますと、美しい自然に目を奪われます。正直、ここがダムに水没するというイメージが湧いてきません。

写真①は吾妻川の名勝として知られる「小蓬菜（しょうほうらい）」です。中国の水墨画を思わせる美しい姿です。本来はこもダムに水没する予定でしたが、計画変更によって主要な景勝地は残すことになっています。

吾妻峡の美しい自然と自らの生活を守るうと、地元の人々は数十年にわたって非常に強い反対運動をしてきました。しかし下流の都県の治水、利水のために建設を受け入れ、周辺工事もおおた終わり、いよいよダム本体の着工という段階を迎えていました。小蓬菜のすぐ横には、工事に備え川の水を迂回させる仮排水トンネルが出来上がっていて、美しい自然とはミスマッチの姿を見せています。



水没予定だった川原湯温泉の街並み

酒屋さんに飛び込んで、篠原ヒサさん（七八歳）に話を聞きました。「何年も反対してきました、仕方なく受け入れ、みんなが町外に出て行ってしまった後に、今度は突然中止と言われた。今さらどうしようもない。どうしてみんなが残っている間に決断してくれなかったのか」

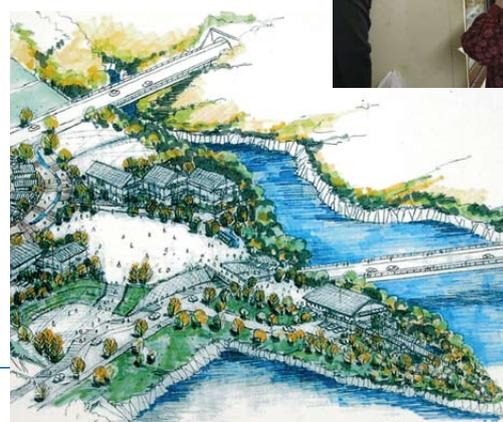
ポツリポツリと話す姿に胸が痛みました。地元住民は当初はダムにほぼ全員が反対。長い年月にわたる説得の末、断腸の思いで同意したと思ったら、今度はそのダム自体がまるで意味のないものであるかのように扱われているというわけです。住民の方々にとってはまるで国に騙されたというような気持ちです。

## ダム湖を活かした新リゾート計画が

生活の代替地も訪れました。着々と工事が進められ、すでに何軒かの住宅が移転し、生活を始めています。川原湯温泉の旅館街もこれから移転してきます。道路もJRの線路や駅も水没地から付け替えられます。ところが現場を見ると大きな問題に気づき



川原湯温泉で酒屋を営む篠原ヒサさん（右）と、ダム完成後の川原湯温泉の再生イメージ画（下）



ます。代替地はダム湖の水位が一一六メートルの高さになることを前提として作られているため、山の中腹を切りひらく格好で造成されている点です。右のイラストの通り、新しい集落は、ダム湖の湖畔に立ち並ぶ住宅や温泉街という想定で設計されています。湖面の眺望を活かした温泉リゾートとして、地元は川原湯温泉の再生に期待をかけてきたのです。（イラストは完成した新しい町の様子）

しかしダムが出来ないとすれば、山の中腹に新たな集落だけがポツンと取り残されるだけになります。人間は水の近くで生活を営むものです。ダム湖のない所に人が住むのはいかに不自然です。

周辺工事のみを終わらせて、ダム本体工事が中止された場合、残された住民の生活はどうなるのでしょうか。川原湯温泉はどうなってしまうのでしょうか。「あまりにも気の毒」というのが正直な感想です。

国の方針に翻弄されてきた水没予定地の住民は、すでに全体の約七割にあたる二五一世

続いて水没予定地の川原湯温泉街を訪ねました。

風情ある通りが続いています。が、ダムの計画にともなう、店を営んでいた人は次々とこの場所を去り、温泉旅館を除けば酒屋は一軒、食堂も一軒という寂しい姿になってしまいました。

# 建設問題に揺



帯が町外へと去っていきました。代替地には一三四世帯分の用地が確保されていますが、ダム建設中止によって、もはやこの地には希望を見出せず、さらに多くの人々が流出することも懸念されます。

その後、群馬県八ツ場ダム水源地地域対策事務所を訪問し、八ツ場ダム計画に至った経緯とダムについてのデータを説明していただきました。

## 「五十七年間の苦悩が」「一時間で」

ダムの必要性に関する県側の説明を聞きかかったのですが、元々洪水被害の想定などの基礎的なデータは国土交通省が作っているとのことでした。考えてみれば当然で、ダムを作りたと言って計画を立てるを進めてきたのは、あくまで国なのです。その国にいきなり梯子を外されて、県としても憤慨しながらも困惑している様子がうかがえました。

「地元は五十七年間も苦しんできました。それを前原大臣は就任二時間で覆した」

「前原大臣との面会を拒否して以来、地元住民を中傷するメールが山のように送られてきます。選

挙で示された民意に逆らうのかと。しかし元々ダムが必要だと言ったのは国であり下流の都県なのです。現に都四県の知事が昨日来られました。今なお八ツ場ダムは必要だと言っています」

「地元の声を聞いてマニフェストを作ったと言いますが、鳩山さんは知事と一度も会っていない。去年現地を訪れた際も長野原町長とはたった一分間しか会わなかった」

怒り心頭、というより、訥々と語る県幹部の姿に、何ともいえない複雑な感情を抱きました。

## ダムは本当に必要か

八ツ場ダムの必要性については、多くの方面から疑問が投げかけられています。

そもそも八ツ場ダムは昭和二二年のカスリーン台風による利根川流域の大規模な洪水被害を受けて建設が計画されたものですが、この地方の降雨の特性から、カスリーン台風が再来しても八ツ場ダムの治水効果はゼロであるとの指摘が一部にあります。

利水についてはどうでしょうか。首都圏の一都四県に日量一九〇万㎥(四三〇万人分の使用水量に相当)の水を供給できるとしていますが、そもそも首都圏の水需要は頭打ちで、水余りの状況になってきているとも言われています。

さらに工事費です。国土交通省は、中止の場合は関係都県に負担金を返還せねばならず生活再建関連費を合わせて二、七五五億円のコストがかかるとしています。一方、継続ならダム本体関連工事費(六二〇億円)に生活再

建関連費、さらに向こう一〇〇年間の維持管理費を加えても最大二、二九〇億円にとどまり、建設継続の方が安上がりとの試算を公表しています。

これについてはかつて八ツ場ダムの事業費見通しが二倍以上(二、一〇〇億円から四、六〇〇億円)に跳ね上がった経過から、「ダム本体に着工すれば工事費は必ずや膨れ上がる。六二〇億円で収まるはずがない」と市民団体から批判されています。

いずれも賛成派・反対派の双方が自らの論拠を言い立てている状況で、いわば水かけ論の様相を早めています。

## 冷静な費用対効果の再検証を

前原大臣は九月一日に公告されていた八ツ場ダム本体建設工事の入札を取りやめました。その後、八ツ場ダムだけでなく全国で計画されている一四三のダム事業を見直しの対象とすると表明しています。これから来年度予算編成の過程の中で、これらのダムの必要性について再検証が行われることとなります。

ここで私が求めたいのは再検証における費用対効果の厳密な再試算です。

経済学の用語でサンクコスト(Sunk Cost)というのがあります。「ドブに捨てたカネ」といった意味です。八ツ場ダムの場合、これまでに投じられた事業費三、二二五億円がサンクコストにあたります。これはもう戻ってこないカネです。「すでに巨額の予算を投じたのだから建設継続を」というのは合理性の



電線地中化など、整備が進んでいた代替地

正しいのは、これから完成までに投じられる事業費と、完成によって得られる便益を比較することです。ダム完成による便益がこれから投じられる事業費を下回るようなら事業を中止すべきだし、逆に上回るようなら継続すればいいのです。

問題は、ダム完成による便益がしっかりと計算されていないことです。国土交通省は八ツ場ダムの費用対効果(B/C)を三・四、すなわち総事業費に対して三・四倍の便益があるとしていますが、これは相当怪しい数字です。洪水被害の軽減効果の基礎となるデータが存在しない、洪水の発生パターンがほとんどありえない前提に立っている、といった事実が過去の国会での議論の中で明らかになっています。

前原大臣の言うダム事業の必要性の再検証にあたっては、冷静に、かつ厳密に費用対効果の再試算を行わなければなりません。地元住民への同情に流されることも、マニフェスト至上主義に陥ることも、あってはなりません。今後の国土交通委員会ではそのことを訴えていきたいと考えています。

# みんなの党 衆議院予算委員会

## 渡辺喜美代表が初質問、鳩山内閣に「脱官僚」を問う

去る一月四日、衆議院予算委員会において渡辺喜美代表の質問が行われました。予算委員会の委員に起用された柿沢未途も立ち会い、テレビの国会中継も入る中、五〇分間の質疑が行われました。民主党がマニフェストで掲げたのが「脱官僚」と「政治主導」。官僚の振付けで政治家が操られてきた自民党政権下の官僚内閣制を打破し、国民から選ばれた政治家が国政の基本方針を責任をもって決定する仕組みに改めることを約束していました。みんなの党もその考えには大賛成です。

しかしながら、鳩山内閣発足後の政権運営を見ていると、どうもマニフェストに反するような動きが目につきます。渡辺代表はそこを真正面から追及しました。

まずは本会議での代表質問の時間を与えなかった民主党の国会運営のやり方を「数による暴挙」と批判。その上でみんなの党が準備している公務員制度改革のための議員立法「霞が関改革関連法案」のパネルを示し、鳩山内閣の公務員制度改革に対する基本姿勢をただしました。

「言ってることやってることが全然違うじゃないか！」

議論がヒートアップしたのは天下りをめぐってです。日本郵政の西川善文社長を退任に追い込んだと思ったら、よりによって後任の新社長に選んだのは斎藤次郎元大蔵事務次官。細川内閣当時に大物次官として国民福祉税騒動の立役者となり、細川総理に深夜の記者会見までさせた官僚主導政治の象徴のような方です。

渡辺代表は「一般論」と前置きした上で「ある省の事務次官を務めた方が一四年間天下りポストを

歴任して、その後政府が全額出資する会社の社長に就けた場合、それは天下りにあたるか」とチクリと質問。その上で斎藤元次官の人事について、国家公務員法をひもときながら「政府がこの人を社長にしると要求したもので、条文上、ドンピシャりで天下りのあつせんにあたる。懲戒処分の対象だ」と追及しました。

これに対して仙谷行政刷新相は「今回は省庁のあつせんによる天下りではない。政治的な判断で人材の抜擢を行ったもので問題ない」と答弁しました。

この答弁に渡辺代表はカンカンになり、「省庁が天下りのあつせんを行うと懲戒処分になるが、大臣がやると何でもいんだと。それでは民主党が言ってきた天下りの根絶とまったく違うではないか！」

鳩山総理も「今回の人事が天下りとは思っていない」といささか苦しい答弁を繰り返しました。

ヤジと拍手の中、持ち時間の五〇分間はあつせん間に過ぎていきました。翌日のテレビでも渡辺代表の質問は大きく取り上げられたようです。

ので、国民の目から見てどちらの主張に説得力があつたかは明らかではないでしょう。今後他党にはできないズバリ核心を突いた質問を鳩山内閣の閣僚に投げかけていきます。ご期待ください。



## 明日の日本をつくる政治家養成塾 「みんなの政治塾」開講!

みんなの党では2010年1月から、みんなの党の公認候補となる政治家の発掘・育成を目的とした「みんなの政治塾」を開講します。講師には党所属議員をはじめ、みんなの党の前身となった国民運動体「日本の夜明け」でナビゲーターを務めていただいた各界・各層の著名人を予定、実践と経験を積み、日本の未来を託す政治家として躍進してもらうためのサポート体制を整えていきます。募集要項などの詳細は、公式ホームページで紹介しております。



## みんなの党チャンネル 渡辺代表、江田幹事長 定例記者会見動画を配信中!

みんなの党では毎週金曜日に渡辺代表、火曜日に江田幹事長の定例記者会見を行っております。みんなの党の活動をより多くの皆様にご覧いただくため、記者会見の動画はみんなの党公式ホームページでご覧いただけるほか、所属議員の活動報告も随時紹介しております。ぜひ一度、公式ホームページにご訪問ください!



## みんなの党東京都第15選挙区支部主催 「柿沢未途君を励ます集い」

日時 平成21年12月2日(水) 18:30開演 (18:00開場)

場所 ホテルイースト21東京1F(江東区東陽6-6-3)

●みんなの党 東京都第15選挙区支部 ☎03-5620-3104



代表 渡辺 喜美 幹事長 江田 憲司 政策調査会長 浅尾 慶一郎 国会対策委員長・副幹事長 山内 康一

ホームページ、ツイッターなどで日々の活動報告をしております。ぜひ、ご覧ください!

政策調査副会長 国会対策副委員長 柿沢 未途



\*所属議員の参加は変更になる場合がございます。

詳細は柿沢未途公式ホームページ(www.310kakizawa.jp)または上記連絡先にて。

## タウンミーティング開催 第1回は永田町・憲政記念館

渡辺代表をはじめ、所属議員の講演、参加者とのディスカッションなど、みんなの党のタウンミーティングを開催します。詳細は公式ホームページまたは下記連絡先にて。

日時 平成21年12月4日(金) 17:00~18:30 (16:30開場)

場所 憲政記念館(千代田区永田町1-1-1)

\*定員になり次第締め切らせていただきます

●みんなの党 タウンミーティング事務局 ☎03-5216-3710